

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372300901
法人名	社会福祉法人 樹の里
事業所名	グループホーム 樹の里
所在地	愛知県瀬戸市紺屋田町93番地106 0561-89-7211
評価機関名	社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会 施設福祉部
所在地	愛知県名古屋市中区丸の内2-4-7 愛知県社会福祉会館
訪問調査日	平成19年6月26日

【情報提供票より((平成19年6月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人 人
職員数	11人	常勤7人、非常勤4人、常勤換算7.48人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 造り	
	4階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無 ○		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		850 円	

(4) 利用者の概要 (6月11

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1		要介護2		3		
要介護3	5	要介護4		1		
要介護5		要支援2				
年齢	平均	85.4歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 清和会 中央病院 山中歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホームとデイサービスのある4階建物に併設された、安全と安心を考慮した丘の上の緑の環境に恵まれた建物であり、玄関は奥にある。入居者が世話している花壇があり、気軽に世話ができるように工夫されている。共有スペースの周りに居室9室、トイレ3カ所、職員室があり、居室は洋室と畳と障子が用意されており、各室より外に出られ緊急避難しやすくなっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との関わりについて課題として取り組み、運営推進会議の内容の充実を図り、市と連絡を密にして助言や支援を受けて、良好な関係である。市の受託事業は介護相談員の受け入れを予定している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者1人で決めた事ではなく、会議の中で、職員全員の意見を基に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者全員が参加して、出席者全員がホームの利用者の認識を変えるなど積極的な取り組みを行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム内では、頭の体操や、楽しむ範囲内でリハビリ、計算、音読ドリル、パズル、塗り絵「カレンダー作り」や風船バレー、お手玉遊びなどの機能回復訓練も行われている。健康チェックや食事摂取量、排便チェック等の書類があり、家族への暮らしぶりの報告もしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設施設と共に地域の交流の機会を作り、地域に根ざした施設作りを事業目標としている。2ヵ月毎の運営推進会議も開催している。隣接幼稚園には手縫いの雑巾をもっていくなどの交流や、小学生と共に水質浄化セラミックス作戦に協力している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流の機会を作り、地域に根ざした事業目標に添って、事業所独自の理念を職員で話合って作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議で理念を唱和している。職員で話し合っって作った理念を実践に向けて取り組んでいる。	○	理念は、三項目で玄関に掲げてあり、目につきやすくなっている。内容は理解しやすく掲示してあるが、家族や利用者にもより分かりやすく工夫されることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接幼稚園の行事参加、小学校の川の浄化活動へのセラミックボール作りに協力し、中学生の職場体験も受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新人職員も積極的に自己評価、外部評価の意義を理解して貰うために参加させ、全員で日々の業務に評価を生かし取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に市の助言もあり、利用者全員が参加して、地域の老人会会長などの参加者の入居者に対する認識を変えるなどの取り組みをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度より、年二回介護相談員の受け入れを依頼し、ホームの広報誌を市民への啓発のため、市福祉課に置かせてもらい交流を図っている。地元商店街にも配布している。管理者が市との連絡を取りあっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会も頻繁にあり、そのたびに報告しており、金銭管理について確認し、捺印してもらっている。面会できない家族には、書面で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の相談や苦情を聞き対応している。また、相談場所も伝えている。運営推進会議に家族も参加し意見をだしてもらい、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職に配慮をしているが、ホームに馴染めない理由などで若い職員の退職や異動があるが、異動については入居者に説明し、理解を得ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画書に事業目標や重要行動項目をもとに、職員の今持っている個々の能力を活かし、向上していくように研修に参加して意識統一している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には、現在同業者が四箇所あり、交流の機会はない。	○	経験豊富なホームなので、今後市の助言のもとに率先して他のホームとの交流に取り組むことが望まれる。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が宿泊することもでき常に家族と相談し、サービスを突然開始することなく、家にあつたものを持ってきてもらうなど、馴染める雰囲気作りを工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	菜園や梅干作り、洗濯、得意分野の活躍を尊重し、職員が教えられることもあり、支え合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の得意分野を生かして意思を尊重し、本人の意向の把握に努め見守っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状態を適切に把握した介護計画を立てるために、介護にかかわる諸記録を基にサービス担当者会議で全職員で検討し、家族の意向も取りいれて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者が安全、安心して暮らせるように、毎月のケース会議で検討し、入居者や家族と相談し、現状に即した計画に見直して自立支援を行っている。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している施設との各部門に参加して情報共有しており、入居者や家族の要望に応じた支援がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に協力してもらいかかりつけ医に通院することができ、本人や家族の希望を取り入れて、月一回協力医院の医師の往診を行い、連携をとっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族とは話し合っており、かかりつけ医にも相談し、併設の特養の入所か病院に入院することについて同意を得ており、その方針については全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、話しかけられた事柄は受け止めているが、過去や生活暦等の個人情報には注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の能力に合わせて役割を持ってもらい、職員は見守る余裕を持って、入居者の意欲を引き出していくように希望に添った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理、盛り付け等役割を持ち、職員と一緒に行動している。食事内容も意見が反映されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、入居者の希望を取り入れ、入浴時間や入浴順序等の希望も聞き支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの役割は、得意分野を生かし、希望に添った支援をしている。野菜づくりや花作りなど、楽しみながら支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事材料の仕入れや個人的な買い物等は、希望者と車でスーパーまで出かけている。その際、喫茶店に立ち寄ったり、ドライブで遠出したり、希望した外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯以外は施錠を行っていない。ホームの出入り口に長い布暖簾があり、数箇所鈴をつけ、移動に気付くよう工夫されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と訓練を共有しており、避難訓練は年四回行い、夜間の訓練も実施している。	○	地域の人々の協力が得られるように依頼中であり、地域との連携などの更なる取り組みの検討が期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の助言もあり、栄養のバランスを管理している。水分量も職員が夜間の方も把握して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、入居者が手入れした花壇があり、居室からは世話している畑もみえる。理念にも掲げている環境を生かし、土や緑に触れ、季節が感じられる。採光、音量についても気配りされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には畳があり、窓には障子とカーテンが併設されている。家具は本人好みの箆笥や、本箱、小型テレビも希望により設置され、居心地のよい居室が工夫されている。		

※  は、重点項目。